夢 駒澤会だより

第６号

（2006年８月１日）

駒澤大学駒澤会発行

## 名誉会長に大谷哲夫総長が、名誉副会長に池田練太郎学長が就任されました。

CONTENTS

P1　大谷哲夫名誉会長挨拶
P2　池田練太郎名誉副会長挨拶
P2　平成18年度委員総会
P3　新役員報告
P3　副会長挨拶
P4　新年賀詞交歓会
P4　駒澤会特別賞　旅行記
P5　6.17「初夏の親睦会」報告
P6　秋の一泊研修会のお知らせ
P6　駒澤会奨学金支給状況
P6　事務局担当者交代
P6　編集後記

総長、駒澤会名誉会長　大　谷　哲　夫

ご子息ご子女のご縁を持ちまして相変わりませぬ駒澤大学・駒澤短期大学へのご慈愛溢れるご支援を賜っておりますこと、深く感謝いたします。

私は、本年四月より学校法人駒澤大学の教学を総括し建学の理念を具現する責務を持つ総長を拝命いたしました。学校法人駒澤大学は、駒澤の東京・岩見沢・苫小牧の三高校を含みます。私の責務は、その諸学校に対し、仏教の教義とくに禅の精神に基づく建学の理念「行学一如」の真髄を広く伝えることにあります。「行学一如」とは、禅の的旨である「修証一等」に基づくもので、本学では知識を会得するだけではなく、それに実践行を相応させる。つまり「学ぶことと行うことの一体化」、「理論と実践の融合を求める」ということなのです。

駒澤大学は、文禄元年（一五二九）、駿河台の吉祥寺に禅の学林として発祥して以来四一四年、明治一五年（一八八二）、新制度下で大学となって一二四年の歴史と伝統を誇っております。が、しかしそれは、ただ順調に発展し現在に至ったのではなく、建学の理念の基で先輩諸氏が幾多の困難な歴史を乗り越えた見事な結果でもあるのです。

私が駒澤大学・駒澤短期大学学長であったおり、ことある毎に「心の時代」とまで云われる二十一世紀を担うのは仏教系の大学であり、その雄が、禅の精神に基づく明確な建学の理念を持つ駒澤大学であると鼓吹し、技術・物・利益優先がもたらした自然や人間社会の荒廃に警鐘を鳴らしてまいりました。この度の総長就任に当たり、本法人の教育の根底に、禅の精神に基づく人としての「心のありよう」を真摯に語りかけ、問いつづけて、命への慈しみや他者へのいたわりを第一義とする人間教育を推進する所存です。それは、何処にあっても何からも自己を乱されることなく無碍自在に活躍する、禅の奥義である「随処に主となる」ということに自ずと繋がっていくものと信ずるからです。

近年、駒澤大学は海外の大学との交流が極めて盛んですが、本学の根源である禅の精神は、海外では国内以上に高い関心と好感を持って迎えられております。ここ数年の、学部等の改組、法科大学院の設置、グローバル・メディア・スタディーズ学部の開設等、時代の趨勢を先取りした方向を打ち出しました。が、これはいずれも建学の理念「行学一如」を根本としていることは言うまでもありません。

今後、大学という知的現場で伝授される知識・技術は時代と共に推移し進展しますが、本学の禅の精神に基づく建学に理念「行学一如」による人間形成は決して変るものではありません。

駒澤会の皆々様には、建学に理念のより一層の具現化のため、今後とも益々のご支持ご支援を賜りますよう伏してお願い申し上げる次第です。　合掌

学長、駒澤会名誉副会長　池田練太郎

駒澤会の皆さまには、平素より本学に対してさまざまなご支援をいただき、心より御礼申し上げます。

実は、原稿のご依頼を受けて、学長が駒澤会の名誉副会長になることを初めて知りました。私のような者が“名誉”の付く副会長にさせていただくことに何となく気恥ずかしい思いを感じております。

昨年度、私は仏教学部長になり、教育後援会と駒澤大学が協力して開催している教育懇談会に出席する機会に恵まれました。その折、大学というものが学生、教員、職員だけでなく、その他の多くの方々に支えられて運営されているということを改めて実感し、深く考えさせられました。

ところで本学の場合、そのようないわば大学の外からのお力添えは、特に同窓会、教育後援会、そして駒澤会からいただいているわけですが、大学に対する気持に限定して、あえて失礼を顧みずに述べさせていただくならば、同窓会は卒業生の会なので母校に対する思いがその原動力、教育後援会は在校生のご父母の会なので、ご自分の子供を含む在校生への応援の気持がその原動力と申せましょう。そのように考えてくると、駒澤会はまさに皆様の駒澤大学を愛する純粋な思いそのものが、活動の原動力ではないかと思うのです。本当にありがたいという気持で一杯です。

ご承知のように今、いずれの私立大学も少子化の波に襲われて、生き残りのための対応を厳しく迫られています。本学も決して例外ではありません。このようなときにこそ、純粋に駒澤大学を愛してくださる方々のお気持が何よりの励みになります。私も、皆さまからますます可愛がられる、魅力ある大学に育てていくために微力ながら懸命に努める覚悟でおります。今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます

# 平成18年度委員総会

議　題

1. 平成 17 年度各部活動報告
2. 基金運用状況の報告
3. 平成 17 年度決算案及び監査報告
4. 平成 18 年度各部活動計画
5. 平成 18 年度予算案
6. 会長、副会長、監査の選任
7. その他

磯田会長

委員総会

駒澤会の平成 18 年度委員総会が、去る 5 月 20 日（土）午後 2 時から本部棟 6 階会議室で開催された。総会には川本新名誉副会長が出席され、奨学金の支援のお礼があり、日頃の駒澤会会員の活動に対し、労う言葉があり、関心の深さが感じられた。また　少子化時代を迎え、大学全入時代と言われ、駒澤大学も魅力ある環境作りを目指し、内外から高い評価を得られるよう努力しているとのことで、今後も大学への理解と協力を要請された。今年度は執行部役員の改選期に当たり、新執行部（磯田会長再任・澤畑・赤堀・井上副会長 3 名が新任）と監査（村田・戸谷監査 2 名が再任・三宅監査が新任）が承認された。退任された高笠・高見両氏には、今後とも顧問として駒澤会の運営に、各役員の活動にご助言いただきます。長い間本当にありがとうございました。事務局も異動があり、指さんが学生部に異動され、後任に唐沢さんが着任し、駒澤会を担当することになった。

総会の議題は磯田会長が議長となり、17年度決算報告・基金状況の報告の後監査報告があり異議無く承認された。今年度より決算報告書が、一般会計と基金会計が整備され分かり易くなった。しかし一般会計の基金会計への依存体質は減少傾向にあるものの引き続き大きな課題を残した。基金の運用状況については、低金利の時代にﾉｰﾘｽｸにもかかわらず、一定のﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽが得られ評価されたのではないか。各部長より活動報告・活動方針の発表があり、各部委員の努力がうかがえた。総会は滞りなく終了し懇親会へ移動した。昨年同様今回も総会への出席者が少なく大きな課題を残した。役員会でも検討課題として取り上げられた「委員総会」の委員の文字は取り除き、維持会員全体の総会として分かり易い名称にて変更して来年度は案内すべきではないか。各部に所属していない維持会員は大変戸惑っているようだ。新年度も「会員の増強」「参加意識の高揚」を重要な課題として駒澤会の運営をしなければならない。

（総務部　新島　記）

川本勝副学長、名誉副会長

懇　親　会

## 役員報告

| | 新役員 |
|---|---|
| 会　長 | 磯田　昭（再任） |
| 副会長 | 澤畑三郎 |
| 副会長 | 赤堀菊絵 |
| 副会長 | 井上俊夫 |

| | |
|---|---|
| 監　査 | 村田保広（再任） |
| 監　査 | 戸谷誠之（再任） |
| 監　査 | 三宅哲也 |

## 副会長就任の挨拶

この度5月20日の委員総会において副会長に任命されました澤畑でございます。駒澤会の歴史と伝統を思うと、副会長の責務の重さを痛感せずにはいられません。幸いにも、磯田会長以下有能な役員・会員の皆様に恵まれ心強く思っております。

駒澤会が益々発展向上するよう努力いたす所存でございますが、そのためには、会員の皆様方の協力が無くては達成できるものではございません。駒澤会が和やかな雰囲気の中で一歩一歩前進し、大輪が咲くよう、微力ながら努力いたしますので、会員の皆様には重ねてご支援をお願い申し上げ、就任の挨拶といたします。

澤畑三郎

2007年には団塊世代の方達が数多く定年を迎える時代がやってきます。私もその中の1人として、今年はまた大きな節目の年として、駒澤会副会長という役目をおおせつかり、よき先輩の方々のお力添えや後押しがなければお引き受けできなかったのではないかと思います。
2年間、駒澤会の一員として私なりに努力してまいりますので、どうぞ皆様、相変わらずのご協力、ご支援の程、よろしくお願いいたします。

赤 堀 菊 絵

先日の総会で推薦され、副会長の大役を仰せつかりました井上です。伝統ある駒澤会の役員として迎えられましたが、私のような浅学非才の若輩者が十分に職責を果たせますやら不安を感じております。入会して日も浅く、会務を円滑に進めてこられた諸先輩氏のご努力・ご苦労についても深くは理解できておりません。しかし、選出されましたからには、微力ではありますが、会務に専心努力いたす所存です。今後は、さらに『魅力ある駒澤会』を目指し、「解かり易い活動」、「会員数の増加」など、皆様のご指導・ご協力をいただきながら、役員のひとりとして進めて参りたいと考えております。
よろしくお願い申し上げます。

井 上 俊 夫

# 新年賀詞交歓会

平成18年1月14日（土）東京全日空ホテルにて恒例の新年賀詞交歓会が開催されました。
当日は多くの教育後援会、同窓会、駒澤会会員や教職員の参加により、和やかな会となり、また吹奏楽部の演奏は参加者の目を引く大変すばらしいものでした。毎年の開催で出席を心待ちにしている会員も多くいることを聞いています。

## 駒澤会特別賞
## ～旅行記～

今年も好例の、新年賀詞交歓会福引大会において、見事に駒澤会特別賞を引き当てた方がいらっしゃいました！
早速 旅行記をお願いしたところ、写真と共に旅行記が届きましたので、ご紹介させていただきます。

「新年賀詞交換会で駒澤会特別賞が当たって」

飯　島　一　人

平成18年1月14日開催されました新年賀詞交換会に参加いたしました。

私は今年で3回目の参加で、毎年総務委員として会の進行をお手伝いさせて頂いておりますが、皆様がとても楽しみにお待ち頂いております、「抽選会」毎年一番最後の特賞は当選された方が大変喜ばれ、こちらまで楽しい気分になっておりましたが、まさか！自分が今年この賞を頂けることになるとは、夢にも思っておりませんでした。

私が当たりました特賞、内容はJTBのトラベル券5万円分です。指定されたホテルに期日限定で行くのではなく、自分で企画した旅行を楽しめる、とても素敵な賞品です。今年は下の子供も駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部に入学する事となり、3月に家族4人で西伊豆へ温泉旅行に行かせて頂くことに致しました。

東京をマイカーで午前11時に出発。西伊豆堂ヶ島まで約5時間、天気は当初晴れていましたが、目的地に近づくに従い雨が降り出しましたが、東伊豆の海岸沿いに車を走らせ、とても気持ちのよいドライブができました。

午後4時過ぎ、西伊豆堂ヶ島温泉に着き、さっそく家族全員が楽しみにしていた温泉へ、露天風呂も海に面しており、三四郎岩を目前に絶景のお風呂を楽しみ、夕食。普段はとても食べられない、新鮮な海の幸を心ゆくまで堪能させていただきました。元々仲のよい家族では有りますが、娘二人妻の女性3人、男は私一人だけの家族、全員での旅行は3年ぶりです。翌日は天気も回復し、伊豆の西側を帰るルートをとり、目前に雪を抱く富士を見ながらのドライブもまた感動でした。今日の旅で久しぶりに家族そろっての一家団欒の機会をいただきまして、本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。

# 初夏の親睦会報告

**6月10日（土）大仁温泉（ホテル）・修善寺・竹林の小径**

この春の役員改選で、厚生部から副会長となられた前赤堀部長と前井上副部長に代わり、森屋部長と私（田邊）が副部長を拝命させていただきました。優秀な人材を二人も失った事は厚生部にとって大きな痛手でしたが、ベテラン山田副部長の知恵をお借りしながら、これまで、培ってきた厚生部本来のチームワークを発揮して、森屋部長を中心に明るく、楽しく、前向きに活動していきたいと思っています。厚生部の良いところは素晴らしい先輩に恵まれていることです。今回の親睦会でも若輩者の私たちを陰で支えてくださったのは先輩の方々でした。そして、森屋部長のお人柄もさることながら、ユーモア溢れる名司会が場を和ませ、旅をより楽しいものにしたのではないかと思っています。森屋部長の信条でもある「楽しくなければ厚生部ではない！皆さんに楽しんでもらわなければ厚生部の資格がない！」ということを自ら実践されたことで、そのお考えが部員にも浸透し、新生厚生部の初仕事としては、大成功だったと自負しています。

では、初夏の親睦会についてご報告させていただきます。

21名の参加でしたが、その倍はいるのではないかと思われるほど、にぎやかで、バスでの楽しい時間があっという間に過ぎました。

車中では恒例となりました、井上副会長の漢字クイズが出題され、 難問奇問に頭を抱える人、ヒントを要求する人、携帯電話を出して調べる人、等さまざまでした。一位は真面目に取り組まれた、総務部の酒井さんで満点でした。流石ですね！

そうこうしているうちに、バスが目的地に着き、自慢の宴会場に案内され早速

大宴会が始まりました。赤堀副会長がご挨拶され、続いて井上副会長の乾杯でグラスを開け、美味しそうなお食事に箸をつけました。暫くすると宴会場の舞台の緞帳がするすると開き、なんだろう？と見ていると、舞台の奥が一枚の大きな素通しのガラスになっていました。そこには鮮やかな緑の奥に形のよい富士山が綺麗に描かれているのです。紛れもない本物の富士山でした。正に一枚の絵を見ているようで、あまりの感動に声もなく見入ってしまいました。宴会終了後のんびり温泉浴を楽しみ、大満足でホテルを後にしたのです。

次の目的地「修善寺、竹林の小径」では、どこまでも続く竹林の中を散策し、青竹の爽やかな空気に触れ、静かな川のせせらぎに耳を澄ませ、しばし静寂の中で自然の尊さに感銘を受けました。修善寺は真言宗で開祖されたお寺ですが、現在は曹洞宗のお寺です。無事帰京を祈願したあと、再び車中の人となり、予定通り駒澤大学に帰ってまいりました。

皆さんに楽しんでいただけたのか不安は残りますが、事故もなく無事終了できましたことは、ご参加いただきました皆様のご協力のお陰と感謝しております。駒澤会の和を乱すことなく、どんなご意見にも真摯に耳を傾けこれからも頑張っていく所存です。至らない点も多々あるかと思いますが、厳しくも温かい目で見ていただけたらと、思っております。今後とも厚生部をよろしくお願い申し上げます。

厚生部副部長　田邊隆子

## 秋の一泊研修会のお知らせ

**皆様の参加を心よりお待ち申し上げます。**

**平成18年9月30日（土）　～　10月　1日（日）**

**南房総（小湊ホテル三日月）　　往復貸し切り観光バス**

**詳細は、研修会のご案内とホテルパンフレットをご覧ください。　　厚生部**

駒澤会奨学金応募状況　　採用人数　25名（1人年額20万円一括支給）、応募者数　274名
平成18年7月支給

事務局担当者交代について

4月より、教務部から教育振興部に異動となり、駒澤会と同窓会の業務を担当しています、唐沢です。長く教員と学生に関する業務をしておりました。卒業生の訪問やお忙しい中、会議に参加してくださるOBやご父母の方々と接し、大学を外から支えてくださる方々に改めて感謝いたしております。駒澤会は駒大卒業生を持つ親の会、ということもあり、熱心な運営とアットホームな面に親しみを感じています。いろいろな方にお聞きしながら仕事を進めていますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

（唐沢晶子）

編集後記　　指さんは、5年間も縁の下の力持ち的存在として、事務局の運営を支えていただきました。この度、学内の異動で学生部、教育後援会の担当者になりました。この「駒澤会だより」も創刊当時より、原稿依頼・編集・校正と、指さんにお手伝いいただき、定期的に発行できるようになりました。今回の6号からは新たに唐澤さんの力を借り、紙面を充実させていきたいと願っております。

田中隆一

駒澤会だより　第6号
発行日：2006年8月1日
発行者：駒澤大学駒澤会広報部
154-8525　東京都世田谷区駒沢1-23-1
TEL：03-3418-9189
FAX：03-3418-9190